

**平成22年度決算  
累積赤字額を着実に解消  
(累積赤字額  
2億94百万円)**

市民の皆さんのご協力を得ながら、新たなプラン初年度となる平成22年度の行政改革については、約2億2000万円の効果額を挙げることができました。

歳入においては、地方交付税総額の大幅な増加や、国の臨時的な補助金・交付金等の効率的な予算編成への反映、歳出においては、プラン項目でもある「定員管理の適正化」をはじめ、公債費の減少等の要因により、平成22年度の単年度収支は、昨年度より約1億9500万円多い約2億4200万円の黒字となり、累積赤字額を着実に解消することができました。

そして、今回市民の皆さんにお知らせするのが、平成22年度決算を基にした、図中(B)のラインです。

平成22年度決算が大きく改善したことを受けて、昨年小松島市行政改革「集中改革プラン」(第二幕)策定時に想定していた図中(A)のラインに比べ、約1億8700万円収支が良くなっています。  
平成22年度の単年度収支は、

想定以上の黒字となりましたが、実質収支は依然約2億9400万円の赤字となっております。また、本年度以降、地方交付税などの動向が不透明であることや、今後も市内公共施設等に係る耐震化事業や防災対策事業等の計画的な整備をはじめ、各特別会計への繰入金や扶助費等の増加が見込まれており、依然予算を許さない状況です。

なお、今回お示しする図中(B)のラインについては、現時点での結果および予測に基づくものであり、今後における国の政策方針・予算編成動向や社会経済情勢が大きく変わることも想定されます。

**今後も市民の皆さんのご協力のもと小松島市行政改革「集中改革プラン」(第二幕)を推進します。**



本年度以降、東日本大震災の影響が懸念されております。本市といたしましても、こうした国の予算編成動向などを注視し、市の行政運営の舵取りに適切に反映させていく必要があります。

今後における歳入動向などが不透明な状況も見据え、引き続き「継続的な単年度収支の黒字化による累積赤字の解消」および「人口減少社会にも対応した持続可能な行政システム」の確立を目標とする、小松島市行政改革「集中改革プラン」(第二幕)を推進していく必要があります、そのためには行政だけでなく市民皆さんのご理解とご協力が必要です。こうしたことから、今後とも市民の皆さんには積極的に情報提供を行うとともに、対話を基調とした市民参加型の市政運営に努めてまいりますので、今後もよろしくお願いたします。

平成22年度 健全化判断比率の状況 (速報値) 単位(%)

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
健全化判断比率	3.29	(5.70) -	算定中	算定中
早期健全化基準	13.54	18.54	25.0	350.0
財政再生基準	20.00	35.00	35.0	

平成21年度 健全化判断比率の状況 単位(%)

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
健全化判断比率	6.16	(4.20) -	20.4	161.1
早期健全化基準	13.59	18.59	25.0	350.0
財政再生基準	20.00	40.00	35.0	

「集中改革プラン」計画における財政収支の推移 (普通会計ベース)

